育成と全道ネット化をめざす 、全ての人に旅する機会を

◇ 入院経験から外出サポートの実践

温泉で疲れを癒し、地場のおいしいものを食べ、温泉で疲れを癒し、地場のおいしいものを食べ、が、年をとったり障がいを持っさせてくれる。だが、年をとったり障がいを持っさせてくれる。だが、年をとったり障がいを持っさせてくれる。だが、年をとったり障がいを持っさせてくれる。だが、年をとったり障がいを持っさせてくれる。だが、年をとったり障がいを持っさい、体調が悪くなったら、と不安も募る。そこで、行きたいところへ自由にでかけたいと思う人で、日本には、地場のおいしいものを食べ、過泉で疲れを癒し、地場のおいしいものを食べ、あれた。

文・加藤知美

供によって、

護保険や自立支援の制度による福祉サービスの提

組織の人材育成や財政基盤の安定化

がゆっくりとすすんできている。

旅とぴあ北海

◇ 継続的な人材育成を視野に、事業を多

二階には寝泊りができる部屋が並ぶ。自立支援法ん中に、机やパソコンが並ぶ事務スペースがあり、ある子どもたちが思い思いに過ごす広い部屋の真から車で五分ほどのところにある。知的障がいの旅とぴあ北海道の現在の事務所は、JR旭川駅

NPO法人

さいではいるではいるではいるではいるでからはショーとでからはショーとでからはショーとでからはショーとでからはショーとでからはショーとでからはショーとでからはショーとでからはショーとでからはいるでからはいるでからはいるでからはいるでがらばいるではいる<li

所の指定をうけて事業を本格化させた。以後、介 がけとなり、誰もが心豊かに地域で生活ができる 重度の知的障がいをもつ参加者がいたこともきっ がけとなり、誰もが心豊かに地域で生活ができる ようなまちづくりの必要性を痛感し、二〇〇一年 ようなまちづくりの必要性を痛感し、二〇〇一年 にNPO法人の認証をとり、二〇〇三年に当時の にNPO法人の認証をとり、二〇〇三年に当時の に対する。 明代表

改善したそのタイミングを外さずに旅行に行きた改善したそのタイミングを外さずに旅行に行きたいかわらず、誰でも自由にどこへでもでかけられるかわらず、誰でも自由にどこへでもでかけられるかおらず、誰でも自由にどこへでもでかけられるかおらず、誰でも自由にどこへでもでかけられるかおらず、誰でも自由にどこへでもでかけられるが出をしたい人からの要請をうけてから介助ボラボートシステムを作るのが活動の骨子。旅行やかわらず、誰でも対象のだが、下間さんにとってといいがある。

こそが、それを形にするべきだと考えてのことだっ とぴあ北海道」を設立した。ニーズに気づいた人 もって体験していた。そこで、誰でも自由に外出 れが人生にとっていかに大切かを下間さんは身を という夢や希望は、生きるエネルギーになる。そ みも制度もないのが現実だった。「どこかへ行ける」 出やちょっとした旅行ができるのに、そんな仕組 ない社会はおかしいと思った。介助さえあれば外 めに仕事や普通の暮らしをあきらめなければなら アが同行する日帰りツアーをスタートさせた。 ことだ。勉強会を重ね、 クをつくろうと思い、仲間とともに任意団体 や旅行ができるサポートをする介助者のネットワー 上の何かと不自由な生活の中、 で入退院を繰り返していた時期がある。ベッドの た。 今からちょうど一〇年前の一九九九年九月の 代表理事の下間啓子さんは、 翌年には介助ボランティ 病気や障がいのた かつて病気の治



明るい笑顔で出迎えてくれる 代表理事の下間啓子さん

材を旅行の介助サポーターとしても育成すること ないと約束が果たせない。 などの事業を通じて経営を安定させ、 いとしたら、すぐにサポート体制が組めるようで サポーターの継続性を担保するのである。 デイサービス 雇用した人

使える場合は本人負担は一割程度となる。ただし、 葉の京都や沖縄の離島などさまざまだ。カンボジ 介助は一時間二〇〇〇円を基本とし、公的制度が んまりとしたバリアフリーになっている美瑛のペ したり、使いづらい大きなホテルではなく、小ぢ ために、体の負担が少ない交通機関をアドバイス を見て連絡してくるケースが多いという。 ツアーに力を入れている。道外からホームページ のツアーよりも、個人からの依頼で計画をつくる ンションなどを紹介したりして準備をととのえる。 例えば、 今までに行ったツアーは、 中国などの海外にも行った。近年は、 旭山動物園など人気のスポットに行く 道内だけではなく紅 企画型

ないのが通

は認められ

余暇活動に

に限られ、 は通院関係 は外出介助

適用範囲

介護保険で

民家を増改築して児童デイサービス 事業を提供している事務所

てすべきだと考えている。 ながるのだからこの部分にも国の施策として手当 きるエネルギーを高めることは医療費削減にもつ

いときに自由に使えるべきであり、

余暇活動

で生

可 旅のサポートで、 広がるまちづくりの

 \Diamond

との交流の楽しさに感動をおぼえるという。 物もさることながら、 をうけて旅行した人の多くは、旅先の景色や食べ 間関係を構築する力が必要とされる。実際、 が優れていたり観光情報に詳しいことと同時に人 者の顔が見えるまでは不安なのだから、介護技術 を大事にしている。旅の行程が決まっても、 旅とぴあ北海道による旅行の介助は、 介助者や旅先で出会う人々 信 頼 関 係

ぴあ北海道が講師をつとめ、 のネットワークづくりが動き出した。講座は旅と が開かれ、 旭川・函館・札幌でトラベルサポーター養成講座 観光地に所在するNPOと連携のネットワークを けられるようにするのが今後の目標だ。道内主要 手と手がそれぞれ連携を検討している。 を実習で学んでもらった。 られるようにするとともに、 の役割を理解し、 つくれれば実現する。この思いに行政も関心をよ プリングボードユニティ21、 こうした旅のサポートを全道どこへ行っても受 今年、 北海道バリアフリーサポートセンター 国土交通省北海道運輸局の主催で ツアー中のサポート計画をたて 函館ではNPO法人ス トラベルサポーター 札幌ではNP 外出先での介助方法 10法人

る。

農家で収穫したトマトをその場で食べたおい

たとえ次の年に体調が悪化しても

トしたりすることは、

まちづくりにつながって

自慢のコースをつくるために地域の宝物を探した

農家や漁師と旅行者との交流をコーディネー

する側にも多くの発見があるという。 きるエネルギーを生み出すだけでなく、

わがまちの サポート ができるはずだ。

旅のサポートの活動は、

高齢者や障がい

く者の生

テムが他の地域ではもっと早く軌道に乗せること

そのトマトを送ってもらえば勇気がわく。

生産者

なぐ活動だ。

にとっても励みになる。

新しい出会いを笑顔でつ

たった今、 -間さんは、 ようやく軌道に乗ったと実感してい 任意団体として活動を始めて一〇

T E L

0 旭

在地

N P O

法人旅とぴあ北海道

川市宮下通23丁目6番157

兽

Ë B

http://www.tabitopeer.org/

どこでも誰

下間さん

福祉は

題だが、 があれば、 もかかる。 づくり 行政の支援 費用も時間 理運営には 材確保や管 れからの課



(旅とぴあ北海道提供)

できたシス 年かかって 旭川で一〇

秋の訪れを能取湖のサンゴ草で体感